

表 5-1 周術期等口腔機能管理において実施が予定される処置等

手術適応 の患者に 対する管 理	手術前に、緊急性のあるう蝕や歯周病 に対する治療(応急処置も含む)	抜歯、抜髄、充填処置、歯周病初期治療
	気管内挿管を行う際に、破折や脱落の 可能性がある歯への事前対応	暫間固定、抜歯、口腔内装置製作など
	周術期の歯周基本治療および口腔ケ ア	手術前後の口腔内衛生環境の改善、口腔粘膜の保 湿・保護、ブラッシング指導
	周術期のう蝕治療、歯周病治療、口腔 ケア、補綴物管理および摂食嚥下機能 の維持	歯冠修復・欠損補綴処置、歯周基本治療、口腔ケ ア、摂食機能療法
化 学 療 法、放 射 線治療お よび緩和 ケアを実 施する患 者に対す る管理	がん治療開始に先立ち、緊急性のある う蝕や歯周病に対する治療	抜歯、抜髄、充填処置、歯周病初期治療
	化学療法の合併症に対する対応	口腔粘膜炎、歯肉出血、カンジダ、口腔感染症、水 泡性病変、顎骨壊死、口腔乾燥、味覚障害、知覚過 敏に対する処置
	放射線治療の合併症に対する対応	口腔粘膜炎、味覚障害、口腔乾燥、水泡性病変、カン ジダ、開口障害、嚥下障害、軟組織壊死、放射線性 骨髄炎、顎骨壊死、放射線性う蝕に対する処置
	緩和ケアの合併症に対する対応	口腔乾燥、水泡性病変、カンジダ、口腔内衛生状 態不良、嚥下障害、歯肉出血、味覚障害、顎骨壊死 に対する処置
	がん治療期間中のう蝕治療、歯周病治 療、口腔ケア、補綴物管理による摂食 嚥下機能の維持	歯冠修復・欠損補綴処置、歯周基本治療、口腔ケ ア、摂食機能療法

表 5-2 周術期等口腔機能管理の依頼として、病院から歯科診療所に連携される情報

項番	項目	内容	備考
3.1.1-1	紹介目的	周術期口腔機能管理の依頼であることの記載	診療情報提供書 HL7FHIR 記述仕様 第 1.1 版において、周術期口腔機能管理の依頼を意味する ReasonCode は未定義。
3.1.1-2	治療予定	手術・化学療法・放射線治療・緩和ケアの実施予定があることの記載	診療情報提供書 HL7FHIR 記述仕様 第 1.1 版において、診療方針指示セクションがあり、CarePlan リソースを用いて記述することとなっている。診療情報提供書では、記載は任意であるが、 <u>周術期口腔機能管理依頼においては、記載が必須</u> となる。
3.1.1-3	管理計画の有無	紹介元病院に歯科診療科があり、すでに周術期口腔機能管理計画を立案しているか、否か	3.1.1-4 として計画が添付されている場合は、立案済みと判断できるため、この項目は独立した項目としては不要。
3.1.1-4	口腔機能管理計画	照会元病院で立案した口腔機能管理計画の記述	周術期口腔機能管理計画書を DocumentReference リソースによって参照する

表 5-3 周術期等口腔機能管理計画書に記載される情報

項番	項目	内容	備考
3.1.2-1	基礎疾患	基礎疾患の状態・生活習慣	傷病名を Condition リソースで表現する。生活習慣を JP Core Observation Common Profile で表現する。

別添:表

3.1.2-2	治療予定 または実績	手術・化学療法・放射線治療・緩和ケアの実施予定または実績の記載	予定については、CarePlan リソースを用いて記述する。手術実績については、Procedure リソース を用いて記述する。
3.1.2-3	口腔内の 状態	口腔衛生状態、口腔内所見（疾患名・動揺歯）、義歯の使用状況、義歯の適合状況、1日あたりのケアの回数	口腔内所見については、JP Core Observation DentalOral サブ WG で検討中である。その他の内容について、あらたに JP Core Observation Common Profile 等に定義を行う必要がある。
3.1.2-4	口腔機能 管理において実施 する内容	口腔ケア指導・専門的歯面清掃・歯石除去・う蝕治療・根幹治療・抜歯・投薬・義歯調整・義歯新製・動揺歯の固定など具体例	CarePlan リソースを用いて記述するが、category や title の拡張が必要。
3.1.2-5	セルフケア 指導方針	患者のセルフケアに関する指導方針	CarePlan リソースを用いて記述するが、category や title の拡張が必要。
3.1.2-6	その他	その他必要な自由記載	使用例が少なく、定義が困難
3.1.2-7	医療機関 名、歯科医師名	保険医療機関名および当該管理を行う歯科医師の氏名等	Practitioner リソース、Organization リソースで記述する。

表 5-4 周術期等口腔機能管理報告書に記載される情報

項番	項目	内容	備考
3.1.3-1	口腔内の 状態の評	口腔衛生状態、口腔内所見（疾患名・動揺歯）、義歯の	周術期口腔機能管理計画書 3.1.2-3 を DocumentReference リソースによって参照す

別添:表

	価	使用状況、義歯の適合状況、1日あたりのケアの回数	る
3.1.3-2	口腔機能管理において実施した内容	口腔機能管理計画に基づいて実施した内容。	Procedure リソースで記述する。
3.1.3-3	その他	その他必要な自由記載	使用例が少なく、定義が困難

表 5-5 周術期等口腔機能管理計画書 Bundle リソースの新設

・周術期口腔機能管理計画ドキュメントを定義する Bundle リソースを新設して表現する。

各 Entry で表現する情報	FHIR リソース	多重度
Bundle に含まれるリソースの参照リスト	Composition リソース	1..1
患者情報	Patient リソース	1..1
文書作成責任者、紹介先医師、紹介元医師の情報	Practitioner リソース	1..*
文書作成期間、文書管理責任機関、紹介先医療機関、紹介元医療機関の情報	Organization リソース	2..4
基礎疾患・生活習慣	Condition リソース	0..*
	Observation リソース	0..*
	AllergyIntolerance リソース	0..*
治療予定または実績	CarePlan リソース	0..*
	Procedure リソース	0..*
口腔内の状態	JP Core ObservationDentalOral(仮称) †	1..*

別添:表

	JP Core Observation Common Profile	0..*
口腔機能管理において実施する内容	CarePlan リソース	0..*
セルフケアの指導方針	CarePlan リソース	0..*
その他	CarePlan リソース	0..*

† JP Core ObservationDentalOral(仮称)は、現在日本医療情報学会 HL7 FHIR 日本実装検討 WG のサブワーキンググループにおいて検討が進められており、口腔内の診査結果を表現することのできるリソースである。本報告時点においては未公表であるが、代替となるリソースが存在しないことから参照することとする。

表 5-6 周術期等口腔機能管理報告書 Bundle リソースの新設

・周術期口腔機能管理報告書ドキュメントを定義する Bundle リソースを新設して表現する。

各 Entry で表現する情報	FHIR リソース	多重度
Bundle に含まれるリソースの参照リスト	Composition リソース	1..1
患者情報	Patient リソース	1..1
文書作成責任者、紹介先医師、紹介元医師の情報	Practitioner リソース	1..*
文書作成期間、文書管理責任機関、紹介先医療機関、紹介元医療機関の情報	Organization リソース	2..4
口腔内の状態の評価	DocumentReference リソース (周術期口腔機能管理計画書の参照)	1..1
口腔機能管理計画に基づいて実施した内容	Procedure リソース	1..*

以上のように、既存の Bundle に対する修正と、新たに提案した Bundle によって周術期等口腔機能管理に必要な診療情報の連携が可能になると考えられる。